

こんにちは♪ 秋が深まりましたね。今月の終わりには、みなさんお待ちかねのハロウィンと、いよいよ図書館のメインイベント・**図書館フェア**が開催されます！

期日は、**10/27～31**！ ハロウィン前の土日を挟んだ3日間です。内容は**雑誌のバックナンバーをあげちゃうフェア**としおりイラストコンテストです！

では、詳しく紹介しましょう！

まずは**雑誌のバックナンバーをあげちゃうフェア**！ 図書館所蔵の雑誌の古いものをタダであげちゃいます。雑誌は1年間保管しておくので、その前のものが対象となります。お宝が続々です！ **雑誌の付録**（non-noのポーチやNewtypeのアニメクリアファイルなどなど！ いっぱいあります♪）も！ 早い者勝ちです！

しおりイラストコンテストは、あなたの描いたイラストがしおりになる！ 絵を描くのが好きなひとには、夢のようなコンテストです。題材は自由。今日配布した応募用紙に自慢のイラストを描いて、図書館の応募BOXへ！ みんなの投票で選ばれた、優秀賞10名の作品が図書館のカラーのしおりになります。どんどん応募してね！

図書委員のオススメ本の展示も開催します！

そして、**ハロウィン**を忘れてはなりません！ いつもは天使のせーやさんも悪魔に変身し、**本を借りてくれた人には、もれなくお菓子をさしあげます！**

さあ、わくわくしてきましたね！ 読書の秋クライマックスにむけてカウントダウン！

『ベルサイユのばら』(全5巻) 池田理代子

「激しく、美しく、生きた——」祝劇場アニメ制作決定！ なんと誕生50周年（半世紀！）なのだそうです！ 六本木ヒルズ展望台東京シティビューにて「ベルサイユのばら展 ベルばらは永遠に」が開催されて盛りあがるなかで、とびっきりのニュースが飛び込んできました♪ さて、みなさんは「ベルばら」を読んだことはありますか？ もしないのでしたら、人生損してます。ぜひ、一読を。キラキラもフリフリも男装のヒロインも働く女性の自立も史実に基づいたストーリーも、みんな「ベルばら」が原点です。少女マンガと宝塚に絶大なる影響を与えました。宝塚が恋と革命をテーマにするのは、それらが非日常へと運んでくれるからですが、まさしくそれが、フランス革命そのものが描かれているのです。ヅカ精神の理想形のような超ドラマチックな作品。「バステューユへ!!」「ベルばら」の次には、さらに熟成された『**オルフェウスの窓**』を。お楽しみは尽きないですね♪

『N/A』^{としもり あきら} 年森 瑛

芥川賞受賞作『おいしいごはんが食べられますように』以上の問題作！ 文学界新人賞を受賞しデビュー、芥川書候補に。タイトルの「N/A」（エヌエー）とは、「該当なし」の意。自分をどんな属性にもふさわしくないと思っている主人公のことです。女子校で王子様ポジションのため「松井様」呼ばれる高2の松井まどかは、生理が来ないように体重を40kg未満にキープしている。まどかはあらゆる「決めつけ」を嫌悪している。体重が少なすぎるから拒食症だというラベリングや、女の子だから～しなさいというような多くの人が口にする言葉を。親友と言えるほど仲のよかった男の子とつきあうようになって失敗した経験からか、まどかは女性とつきあっている。教育実習生だったうみちゃん。まどかが求めているのは、「かけがえのない他人」だ。「ホットケーキを食べたりおてがみを送ったりするような普遍的なことをしていても世界がきらめいて見えるような、他の人とは代替不可能な」「ぐりとぐら、がまくんとかえるくんのような」「最強の友だち」関係。うみちゃんとかかけがえのない他人になるのは難しそうと思っていたところ、うみちゃんがまどかをレズビアンパートナーとしてSNS上で紹介している（「恋人」を想うポエムなコメントつきで！）ことを友だちから知らされる。LGBTな人認定。露骨に配慮してくれる友だち。まどかはすべてに嫌気がさして、うみちゃんと別れてしまう…。「まどかのことを、ただのまどかとして見てくれて、まどかへの言葉をくれる他人が欲しかった」。ラストでまどかは変わります！

『あくてえ』^{ひろか} 山下 絃加

こちらが芥川賞候補作の問題作！ タイトルの「あくてえ」とは甲州弁で、悪態・悪口のこと。ばばあの話す「下品で野暮ったい言葉」はバリバリの甲州弁ですw「あたしの思いは、うるせえな、に全部集約される」。うっせえわ。19歳の派遣社員で、小説家を志望しながら新人賞の予選も通過できず、「本当の人生はこれからやってくる」と切実に信じる「ゆめ」は、要介護の90歳の祖母（ばばあ）とパートで働く母と3人で暮らしている。父親は3年前によそに家庭をつくって離婚、ばばあは父親が引き取るはずだったのに、戻ってきてしまったのだった。達者な甲州弁で憎まれ口を叩く彼女がまあいいキャラで。とてつもなく厄介。ゆめの鬱憤がたまるのもわかります。「あたしだって、ほんとは普段から優しくしたい。でもできないの。あの人を前にすると、どうしたってできないの」。やることなすこと人の神経を逆撫でしてくるばばあ。でも、ゆめは見捨てないのです。

『家裁調査官・庵原かのん』 ^{いおはら} 乃南アサ ^{の なみ}

「逮捕することも捜査することもできない。私たちは、『聴く』ことしかできないけれど——」。庵原かのんは、福岡家庭裁判所北九州支部の少年係調査官。「臨床の専門家」として、罪を犯した少年少女やその保護者たちの“声なき声”に耳を傾けることが仕事だ。「家庭裁判所で調査官をしている庵原です。これは警察の取り調べではありません。あなたを罰するのが仕事ではありません。ですから、思った通りのことを話してください」。警察官にはもちろん、友人や家族にも話せないことを吐き出させる。問題を起こす少年少女の背後には、必ず理由があるのです。取り立てて特徴のない、目立たない女子生徒がJKビジネスに手を染め、友人たちも巻きこんで、ある事件からそれが発覚し十数人の少女たちが補導される大事になった。彼女は妊娠もしていた。そして、一貫して容疑を否認していた。小5のころに父親の財布から一万円札を抜こうとし、中2のとき父親の実家で祖母の貴金属類を持ち出そうとしたところを見つかり、祖父を突き飛ばして強盗致傷で逮捕されていた…。「話しちゃったよ」。「子どもにとっては、長い七年間だったでしょうねえ」。

『デクリネゾン』 金原ひとみ

タイトルの「デクリネゾン」とはフランス語で、ひとつの食材をさまざまな調理方法で供することを意味します。表紙の写真がまさにそれで、豚のデクリネゾン、豚尽くしの料理です。自分のなかに獣がいて、その獣に激突されて二度の離婚を経験し、中学生の娘である理子と二人で暮らすシングルマザーの小説家・志絵は、大学生でまだ21歳の蒼葉とつきあい始めた。あまりに年の離れている志絵との交際に母親が激怒して家にいられなくなった蒼葉は志絵のところに転がりこもうとするが、理子はそれを拒んで家を出て実の父親である吾郎といっしょに暮らすことを望むのだった…。「理子ちゃんはしなやかだね。母親の恋愛問題に振り回されているとは思えない」。新しい家族のかたち。

『あなたに安全な人』 ^{くみ} 木村紅美

Bunkamura ドウマゴ文学賞受賞作！「コロナ感染者第一号」になることを誰もが怖れていたあの頃。東京から来た男は追いやられて自殺したのかもしれない。東日本大震災直前に教え子をいじめ自殺に追いやってしまったかもしれない元教師の妙と、沖縄新基地建設反対デモの警備中にデモ参加者を事故で死なせてしまったかもしれず、その映像が出回っている便利屋の忍。過去に ^{さいな} 苛まれる二人は出会い、奇妙な共同生活が始まった…。

『橋の上で』 湯本 香樹実 文 酒井 駒子 絵

「MOE 絵本屋さん大賞」の記念すべき第1回大賞ほか、各賞を総ナメにした名作絵本『くまとやまねこ』のタグ、再び！「いまここから川にとびこんだら、どうなるだろう」。そう思いながら橋の上で川を見つめていると、いつの間にか古ぼけた雪柄のセーターを着た見知らぬおじさんがとりに立っていた。どこかに行けばいいのにと川を眺めていると、「みずうみを見たことある？」と尋ねた。暗い地底の水路をとおって、ぼくのもとにやってくるというみずうみ。「耳をぎゅうっとふさいでごらん」。遠くからやってくる水の音が聞こえてくるのだという…。

『レッドゾーン』 夏川草介

「医療の世界をめざす人、必読の書」(池上彰)。「神様のカルテ」の著者であり、長野県で地域医療に従事している現役医師でもある夏川さんが、コロナ渦の最前線の現実を描き大反響となったドキュメント小説『臨床の砦』続編！思い出してください。横浜港に正体不明の感染症ウイルスを乗せたクルーズ船が着岸した日のことを。感染力不明、治療薬なし、中国では死者多数の未知のウイルスは、恐怖の対象以外の何物でもありませんでした。感染することは、近所に顔向けができなくなるほどの致命的な落ち度とされました。そんなときに、長野県の片田舎にある小さな地域病院が、ほかでは受け入れないコロナ患者を受け入れたのでした。「本当にわずかな年月で、多くのことが変わってきた。そうして変わってきた中で、しかし変わっていないことがあるとすれば、どんな患者も受け入れ、診療を続けるという基本的な営みであろうか」。人間だから。逃げ出さずに、レッドゾーンで踏ん張り続けた医師たちの記録。

『祈りのカルテ』 知念実希人

玉森裕太主演でTVドラマ化！医学部を卒業し医師国家試験に合格した者は、研修医として2年間の初期臨床研修を受ける。その2年間で内科・外科・小児科・産婦人科・救急など、さまざまな科を数ヶ月ごとに回っていき、医者としての基礎的な力をつけるのだ。そのあとで、どの科を自分が希望するのか決定することになる。諏訪野良太は果たしてどの科を選ぶのでしょうか？ 待望の続編『祈りのカルテ 再会のセラピー』も入荷！

————— せーやさんは、J大学時代に「フランス文学科のオスカル」、日川のみえの都留高では校長先生からオスカルと呼ばれていました♪ では、図書館で。

